

## 効果的なエンカウンター活用例

～ 適応指導教室における活用～

担当：さゆりん

### 1. 適応指導教室とは？・・・不登校の子どもたちを援助する公的機関

適応指導教室は、都道府県あるいは市町村の教育委員会が設置する、不登校児童生徒の支援機関であり、現在は全国に 900 以上もの教室が設置されている。秋田県には 8 カ所設置されている（平成 16 年度）。対象は近隣の小学生・中学生であり、教育センターなどの学校以外の場所や学校内の余裕教室に設置されている。

#### 役割

- ・ 不登校の子どもたちの居場所機能
- ・ 個別カウンセリングや集団での指導、教科指導
- ・ 相談活動、体験活動（調理体験、自然体験など）
- ・ 会話、ゲームなどをする

#### 願い

学校復帰も含め、一人ひとりの子どもが元気に、笑顔になれるように！

### 2. 活用のねらい 「どうせ私は・・・」のチェンジ！

自己肯定感を高める

個と同時に集団を育てる

### 3. 活用場面

入級する子どもを迎える場面... ゲーム性が強いものを実施。入る側だけでなく、迎える側の緊張感も軽減し、教室への親しみの思いを持ちやすくする。集団の一員になりやすくする効果がある。言葉を使うものよりも、体を動かすものを実施することが多い。

例：10 円玉リレー、スターは君だ、ゴジラとゴリラなど

普段の子どもの活動場面... エンカウンターは計画された時間にもみ行われるものではない。エンカウンターが持っているすてきなエッセンスは、普段の子どもとの関わりにもいつでも生かすことができるよう、指導員はエンカウンター姿勢をしっかりと身につけておく。

例：いいところ探し（による声かけ）、リフレミング、ありがとうカード

参考文献：「適応指導教室」高橋さゆりん（「構成的グループエンカウンター事典」國分康孝・國分久子総編集、p74）図書文化 2004